ＪＴＢグループ旅行関連会社　6社トップ　宿泊販売の方針

ＪＴＢ旅ホ連と関係するＪＴＢグループ会社のトップに国内宿泊の販売方針や旅ホ連との連携について語ってもらった。

JTB旅ホ連特集

ＪＴＢ商事

代表取締役 社長執行役員

加藤　雄次

ＪＴＢ商事は、グループ唯一の専門商社として、アメニティグッズ、装備品、内装・改装工事、コンサルティング、衛生対策、環境配慮、防災備蓄、周年記念、販促、カタログギフトなど、幅広い分野でさまざまな商品・サービスの提供に努めている。今後も独自のノウハウにより、いっそう磨きをかけて、新たな価値の創造に挑戦し続ける所存だ。

課題解決へトータルに提案

当社の強みは、あらゆるニーズにワンストップでお応えできることだ。課題解決に際して、トータルでの提案を続けていきたい。また、全社員がお客さまに寄り添うことを常に心がけている。全国37営業拠点の組織力をもって、それぞれの地域のご期待に沿えるよう、迅速にフレキシブルに対応していきたい。

ここ数年で、宿泊施設に対する利用者の意識が随分と変わり多様化してきた。今年度は、これからの旅館・ホテルのかたちを創り上げる進化の1年と考える。特にＳＤＧｓとＤＸは喫緊の課題だ。

当社ではマテリアルリサイクルの仕組みづくりに本格的に取り組む。また、プラスチックから自然由来素材への代替を進め、商品ラインアップを拡充する。効率化、省人化につながるシステムやロボットは、商品・サービスの導入だけではなく、働く人の意識も変える必要がある。教育、研修へのお役立ちにも貢献したい。

宿泊施設の「快適さ」「魅力づくり」は、地域活性化に貢献し、ツーリズム業界の持続可能な発展につながる。それぞれの施設に合った商品・サービスを提案して、皆さまに選ばれるパートナーとなることを目指していく。引き続きのご支援、ご協力をお願いしたい。

ＪＴＢグローバルマーケティング＆トラベル（GMT）

代表取締役 社長執行役員

石田　恒夫

訪日事業はパンデミックにより多大な影響を受けたが、昨年10月からの個人旅行解禁以降、それまでの鬱憤を一気に吐き出すかのような勢いで訪日客が急増している。日本政府観光局（ＪＮＴＯ）によると、3月の訪日客数は、桜シーズンの訪日需要の高まり等の影響により、２０１９年同月比65・８％の１８０万人を突破した。

一方で、訪日客の急激な回復は観光業界のリソース不足を露呈させている。宿泊・飲食業界におけるサービス要員、運輸業界における運転手、そして旅行業界における訪日担当要員、通訳ガイド等、人手不足が訪日事業の本格的な回復の足かせとなっている。この課題には業界を挙げて事業パートナーと連携し克服していきたい。

訪日事業の完全復活に貢献

ＧＭＴの今年度の事業計画のポイントは、急激に回復する事業環境に正対して、「不易流行」で事業を運営することだ。普遍的に変わらないＧＭＴの価値は維持しながら、新しく変化するものに対してはしっかりと対応していく。

海外のエージェントには新しい価値（テーマ、トレンド、ＤＸ）を提案し、事業パートナー、地域・自治体にはコンサルティングを提供して共通価値を創出する役割をＧＭＴが果たす、この訪日ソリューションの役割をＧＭＴ内に定着させていく。

本年3月末に政府は、新たな観光立国推進基本計画を策定した。基本方針は、「持続可能な観光地域づくり戦略」「インバウンド回復戦略」「国内交流拡大戦略」である。ついては、ＧＭＴはＪＴＢ旅ホ連の皆さまと共に、地域に対する訪日ソリューションの役割を果たして、訪日事業の完全復活に貢献していきたい。

ＪＴＢガイアレック

代表取締役兼執行役員

林山　智弘

ＪＴＢガイアレックは、２０２２年1月より東京・大阪2拠点から東京（天王洲ビル）へ商品造成機能を統合することで、小回りの利く商品造成体制を整えてきた。今まで以上に「法人・個人・仕入」とのグループ連携を強化していく。

当社は、経営理念『スポーツ』と『体験』『学び』をキーワードとする旅づくりを通じて、お客様の想像を超える『価値ある時間』を提供します。」を掲げ、全員営業でさらなる飛躍を目指している。

ATなど新たな商品開発を推進

特に当社は、ＪＴＢグループ唯一のＳＩＴ特化会社（ＳＩＴ＝Ｓｐｅｃｉａｌ Ｉｎｔｅｒｅｓｔ Ｔｏｕｒ、目的型旅行）として、さまざまな商品を展開している。社名が「サン＆サン」時代より取り組んでいるスキー、ゴルフ等の各スポーツ商品、「目的型温泉（源泉の宿・にごりの宿）」や「ハイキング」、「目的型エスコートの「テーマあるゆとりの旅」「山旅＆ウォーク」等、意欲的に拡大している。また、２０２２年度より新たにＡＴ（アドベンチャートラベル）商品の販売を開始し、スノーアクティビティ商品など新たな商品の開発を進めている。

旅ホ連会員の皆さまとの連携商品として、「その土地ならではの食や自然・文化をたのしむ旅」「ＯＮＳＥＮ・ガストロノミー」を生かした山形・新潟・鹿児島各県の「温泉王国」シリーズ、長野「来て観て信州」、千葉「房総お魚祭り」、南伊豆「大人の美食旅 金目鯛を食す」。２０２３年度より山旅、ソフトＡＴ、サステナブルツアーを組み込んだ道東支部エリアの商品企画・販売を開始する。

今後は、既存商品の販売拡大はもとより、いまだ埋もれている着地コンテンツ発掘のため、行政、各観光事業パートナーの皆さまとともに地域の素材に磨きをかけ、新たな地域での商品開発にも取り組んでいきたい。皆さまのご支援、ご協力をお願いしたい。

Fun Japan Communications

代表取締役社長

山内　浩世

当社は、アジアに強みを持つコミュニティマーケティングのプロ集団だ。台湾、香港、ＡＳＥＡＮをはじめ7カ国8市場で運営する日本紹介メディア「ＦＵＮ！ＪＡＰＡＮ」は、日本のトレンドや観光情報を幅広く発信し、ウェブサイト会員数１２５万人超、Ｆａｃｅｂｏｏｋフォロワー数４６０万人超と、アジア地域最大規模の日本ファンのネットワークを誇る。

主な事業は、メディア事業「ＦＵＮ！ＪＡＰＡＮ」、ＥＣ事業「ＦＵＮ！ＪＡＰＡＮ Ｓｅｌｅｃｔ Ｓｈｏｐ」、プロモーション事業（インバウンド支援等）の三つの柱だ。現地目線を持つ外国人スタッフやインフルエンサーが国ごとにささるオリジナル記事を配信し、日本好きのアジアンユーザーから月間最大２７０万アクセスを獲得している。ユーザーがＦＵＮ！になる「コト・モノ」をサービスとして提供し続け、日本ファンを増やし、その先につながる世界を地域、企業、自治体の皆さまと共創し、持続可能な循環型社会の創造を目指している。

日本とアジアの潮流を創造

２０２３年度は地域、企業に持続的な経済効果をもたらす関係人口プラットフォームの構築に乗り出す。サイト訪問者や訪日外国人旅行者にコミュニティ登録を促し、関係人口化による地域経済活性化を図ることが目的だ。一過性の訪日旅行で終わらせずに、日本のサポーターやリピーターとして継続的につながり続け、アジアンユーザーのＬＴＶ（ライフタイムバリュー）の向上にも貢献したい。

コロナ禍においてリアルな交流が遮断された世界を経験し、人と人の交流の素晴らしさを私たちは改めて思い知るに至った。ベンチャー魂で〝日本とアジアの架け橋〟としての使命を果たし続けるとともに、旅ホ連の皆さまとご一緒に日本とアジアの大きな潮流の創造を成し遂げたい。

ＪＴＢビジネスイノベーターズ

代表取締役 社長執行役員

上田　泰志

当社は、ＩＴ・デジタルを活用した決済に、ＪＴＢグループのナレッジを掛け合わせ、旅をより「便利」で「快適」かつ「安全」にするソリューションを提供している。

クレジット決済「Ｃ→ＲＥＸ」は、本年7月より端末機を刷新し、クレジット・電子マネー決済に加え、拡大するＱＲコード決済に対応。さらに自動精算機へのサービス適用など多様化する決済手段にオールインワンで対応する。

旅行×ＩＴ・デジタル×決済～生産性向上

ホームページ決済サービス「ＪＴＢ Ｂｏｏｋ＆Ｐａｙ」は宿泊予約と同時の事前決済サービスで、宿泊施設の決済における非対面・非接触ニーズを受け、導入、利用が急速に拡大している。

宿泊施設専用バーチャルカード「ＪＴＢパートナーズカード」は従来のコーポレートカードでは難しかった宿泊施設の光熱水費等の高額な経費に対応し、利用に応じたキャッシュバックによるコスト削減と、経理作業の効率化を実現できる。

「宿泊施設の基幹業務システム／ＰＭＳ」と「さまざまなデジタルソリューション群（システム）」とのデータ連携を実現する「ＪＴＢデータコネクトＨＵＢ」には、当社も「ＩＮＣＨＡＲＧＥ７」を展開しているＰＭＳ事業者として参画し、デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）を推進される宿泊施設の皆さまのお役に立てるよう尽力していく。

今後拡大するキャッシュレス・ＤＸ推進の流れに対応すべく、事業パートナーとの共創によりお客さまの利便性、快適性、経済性の向上に資する新たなサービスを提供していく。そして各サービスの実効性をさらに高めていくことで、持続可能な社会、地域、企業の発展に貢献したい。

ＪＴＢパブリッシング

代表取締役 社長執行役員

盛崎　宏行

当社は、ＪＴＢグループ唯一のメディア企業として、出版物やＷｅｂメディアを通じ旅行・ライフスタイル情報を発信している。２０２３年、「るるぶ」ブランドは誕生50周年を迎えた。50周年記念特設サイトでは、プレゼントキャンペーンをはじめさまざまな企画で50年間の感謝を伝えるとともに、未来に向けて進化するブランド像を示す好機と位置付けて、ブランド価値向上に向けた取り組みを行っている。

「るるぶ」50周年にブランド力強化

これまで「るるぶ」は、「見る・食べる・遊ぶ」をテーマに、旅やお出かけにまつわる情報を提供してきた。中でも「泊まる」ための情報は、読者ニーズの高い重要なテーマである。今後も旅ホ連会員の皆さまのご協力をいただきながら、「発行点数世界最多の旅行ガイドシリーズ」としてギネス世界記録にも認定された「るるぶ情報版」をはじめ、時季や媒体に応じた宿泊情報発信に努めたい。

近年「るるぶ」は「知る・つくる・学ぶ」という新機軸を打ち出し、子供向けの知育本や、アニメ、ゲーム、ＹｏｕＴｕｂｅｒ、ＴＶ番組など人気コンテンツとのコラボ本を発行し好評をいただいている。さらに自治体、企業、学校法人の課題解決や魅力をアピールするソリューションメニューも充実させており、中でも「るるぶブランドを活用したオリジナル冊子『るるぶ特別編集』の発行が拡大している。また、新宿で運営している飲食店「るるぶキッチン」では、タイアップした自治体の食材を使ったオリジナルメニューを提供し、現地に足を運ぶきっかけ作りも行っている。

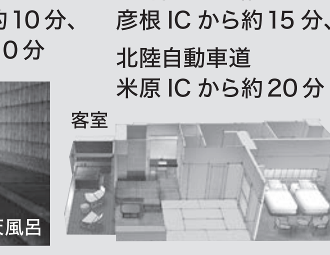
２０２３年度も地域と深いつながりを持つ旅ホ連会員の皆さまからの各種情報を頼りにさせていただきながら、「るるぶ」ブランドの価値向上に努め、地域活性化に貢献していきたい。

蒼の湖邸 BIWAFRONT HIKONE（ビワフロント彦根）

● 専有面積 200㎡を超えるグランピングヴィラも
● 地元の環境と食文化を活かしたウェルネスリゾート
● 敷地内から湧出する自家源泉の温泉「びわ湖 松原温泉」を湛える温泉浴場棟

〒522-002 滋賀県彦根市網代口 1435-91

アクセス　JR 東海道線（琵琶湖線）彦根駅より車で約10分、米原駅より車で10分　名神高速道路 彦根 IC から約15分、北陸自動車道 米原 IC から約20分



侑楽 京八坂
yuraku kyo-yasaka
Hotel 侑楽京八坂
-yuraku-
〒605-0072
京都府京都市東山区鷲尾町 528
www.hotel-yuraku.com

アクセス　バスでお越しの方：JR 京都駅中央口 京都市営バス 206系統／86系統 約20分 祇園下車 徒歩7分
車でお越しの方：阪神高速8号京都線 鴨川西インター 約15分／名神高速 京都東インターより約18分

侑楽京八坂ホテル ホームページ ▶

お問合せ先：TEL.0570-078857
（ホテルニューアワジグループナビダイヤル）

ホテルニューアワジグループの ご予約はこちらから　ホテルニューアワジ　検索
その他のご予約は各ホテルまでお問合せください

Hotel New Awaji Group　ホテルニューアワジ　淡路夢泉景　天原　海のホテル 島花　レジデンスヴィラ　渚の荘 花季　夢海游 淡路島　ホテルニューアワジ プラザ淡路島　あわじ浜離宮　あわじ浜離宮 別荘 鐸海 TAKUMI　海の薫と AWAJISHIMA　SHERATON Kobe Bay Hotel & Towers　清水小路 坂のホテル京都　琴平花壇　阿讃琴南　ザ・シロヤマテラス津山別邸　城下小宿 糀や